

## 検査周期を元に戻せ！ 会社は安全を軽視するな！ のぞみ31号事故の業務委員会開催

のぞみ31号が部品の落下により緊急停止した事故に関する申し入れ（『申第19号』）に対する業務委員会が3月24日、開催されました。

会社の業務委員会に臨む姿勢は、JR東海労が申し入れた質問に対し「他社の事柄であり回答する立場にない」のオンパレードで、不真面目そのものでした。そして、「事故原因は分からない。事故の詳細はJR西日本から報告を受けていない」と、まるで他人事の回答に終始しました。

会社の回答によると、のぞみ31号が停止した時の状況は、外部から異音を感知したこと、「駆動系異常」が点灯したこと以外には情報を知らないということです。また、対策として「入念点検を行った」と説明しましたが、通常点検で外観を目視したのみで、現場社員には何のための点検であるのかの説明はありません。

「駆動系異常」はモーターと車軸の回転数にズレが生じた場合に点灯しますが、会社（業務委員会の説明員）はそれさえ知らないと言ったのです。この異常現象は、脱線や車両火災に直結する重大な事故です。

JR東海労は「会社は安全を軽視しすぎている。もっと真剣に安全対策をするべきだ。申し入れてから2ヶ月も経っているのに、事故の情報が余りにも少ないのは不自然だ。検査周期を元に戻すべきだ」と主張しました。